（2） 種々な種族の(特に Armenoid, Hottentot, 及び Caffer 族の)聲音間に存する人類學的相違に就て。 ファン・ギネケン教授 (Prof. van Ginneken) が人類の最古の聲音間に存する相關々係に就いての論文を朗讀する。

（3） 音聲學の種々の新しい方法や術語に關聯して言語學、生理學、病理學、教育學、心理學、音響學の立場から教示が與へられる。

因みに國際音聲學大會常任評議員は次の人々である。

Prof. J. van Ginneken (Nymegen) (Chairman), Dr. K. Ph. Bernet Kempers (Amsterdam), Prof. S. K. Chatterji (Calcutta), Prof. Marcel Cohen (Paris), Prof. Pierre Fouché (Paris), Prof. Daniel Jones (London), Prof. J. P. Kleiweg de Zwaan (Amsterdam), Prof. A. Sommerfelt (Oslo), Prof. R. H. Stetson (Ohio), Prof. Prince N. Trubetzkoy (Vienna), Prof. D. Westerman (Berlin), Dr. E. Zwirner (Berlin), Dr. L. Kaiser (Amsterdam) (Hon. Secretary).

日本言語學會會報

昭和十三年二月二十七日午後七時より東京神田學士會館に於て發起人會を開き、八杉貞利氏を座長として審議をすゝめ、本會の設立を決議し、會則を作成し、新村出氏を會長に推擧して散會。會合者三十名。

新村氏の會長就任受諾と共に、副會長小倉進平氏以下十六名の評議員及び五名の幹事を決定。

四月二十五日會長・副會長・十一名の評議員及び二名の幹事出席して、第一回評議員會を東京學士會館に開き、會則の細目を修正し、會計擔當（評議員中の一名)・雜誌編輯擔當（評議員中の若干名）の依囑、及び創立大會を五月二十八日に開催することを決議して散會。

五月二十八日午後一時半より東京帝國大學法文經第三十六番教室に於て創立大會を開催。聽衆約三百名に及び盛會であつた。會は新村會長の開會の辭に始まり、神保評議員の經過報告の後、福島直四郎（言語學と文獻學)、柳田國男（鴉と哉)、白鳥庫吉（寺及び佛の語源）の三氏の講演があり(1)、ついで

會計報告（九月三十日現在）

			圓
收入	基本金寄附金及ビ銀行利子		1525.96
	會費收入	郵便貯金ニテ	153.00
		振替貯金ニテ	369.00
		現金ニテ	55.00
	創立大會晩餐會費殘金		4.30
	計		2107.26
支出	印刷代		70.80
	切手代		28.83
	振替申込金		10.00
	創立大會講師謝禮		30.00
	第二回評議員會費用		8.45
	振替用紙代		6.00
	雜費		32.01
	計		186.09
差引殘高			1921.17
但內譯	銀行預金		1389.92
	郵便貯金		138.00
	振替貯金		363.00
	現金		30.25

會計擔當 評議員 橋本進吉㊞
幹事 高津春繁㊞
幹事 木村彰一㊞

同	東京文理科大學教授	神保格
同	京都帝國大學教授	田中秀央
同	東京外國語學校教授	千葉勉
同	學習院教授	東條操
同	慶應義塾大學教授	西脇順三郎
同 (會計擔當)	東京帝國大學教授	橋本進吉
同	東京帝國大學助教授	福島直四郎
同	東京文理科大學教授	保科孝一
同	慶應義塾大學教授	松本信廣
同	東京外國語學校名譽教授	八杉貞利
同	元東北帝國大學教授	山田孝雄
日本言語學會幹事		高津春繁
同		木村彰一
同		小林智賀平
同		八木龜太郎
同		井筒俊彦

寄贈圖書

(書名)	(寄贈者)
言語地理學(ドーザ著・松原秀治譯) 東京・富山房・昭和 13 年	譯者
日遲會話便覽(泉虎一著) 迦羅海軍宿舍・昭和 13 年	著者
地名抄(阿瀨利吉著) 横濱・昭和 12 年	著者
英語學研究 (第二十・二十一輯)	齋藤靜氏
同 (第二十二・二十三輯)	同
同 (第二十四輯)	同
獨逸文學 (第二年・第三輯)	東京帝國大學獨逸文學會
漢字の科學(水谷碧雲著) (汎交通第三十九卷第三號拔萃)	著者